

## 馬の養分要求量について



下村 優樹

HBA門別診療所勤務  
北海道七飯町出身  
平成23年 酪農学園大  
学卒業  
平成26年1月から～10  
月 HBAにて研修、同  
年11月よりHBA門別診  
療所勤務、現在に至る

今回、“種牡馬の養分要求量”について執筆のリクエストをいただきました。ボディコンディションスコア（以下BCS）と繁殖成績には関連性があることから、生産者が繁殖シーズン中は特に飼養管理に関して気を配っていることが現場でも感じられます。

馬の生育ステージや用途により各種栄養素の必要量は異なりますが、養分要求量すなわち生命体を維持していくうえで必要な栄養素の量には飼料標準があります。リクエストいただいた種牡馬と繁殖牝馬（空胎馬、上がり馬）について以下に記します。

### 繁殖牝馬

DE=15.2Mcal

### 種牡馬（非種付け期）

DE=18.2Mcal

### 種牡馬（種付け期）

DE=21.8Mcal

（米国 National Research Council より抜粋）

\*Mcal（メガカロリー）：1000cal

飼料中のエネルギーの全ては吸収できないので、摂取飼料中のエネルギー量から排泄糞中のエネルギー量を差し引いた値を可消化エネルギー（DE）といい、飼料のエネルギー量を評価する値として一般的です。給与される飼料は牧草などの粗飼料と穀類などの濃厚飼料の2つに大きく分けられますが、乾草状態での飼料の可消化エネルギー含有率は粗飼料で約1.5～2.0Mcal/kg、濃厚飼料で約3.0Mcal/kg程度であると言われており、1日のエネルギー摂取量をだまかに把握することができます。また、春から夏にかけての未成熟な放牧草の乾草中の可消化エネルギーが濃厚飼料とほぼ同等な2.8Mcal/kgを超えたという報告もあります。ただし、放牧草は栄養価の変動に加えて採食量を把握することが困難であるため、放牧草から摂取できる栄養価の総量を正確に把握することは難しいので、体重やBCSを定期的にチェックし、推移を把握することが大切になります。

種牡馬については1日における種付け回数も異なれば1回の種付けに費やすエネルギーも個体それぞれであり、それを正確に測ることはできません。一般的に可消化エネルギー要求量の10～15%程度を増減しながら体重の変化を観察することが勧められており、エンバクなどの穀類、切り草などの粗飼料の増減によってBCSの変化も含め調整することが効率的かつ安全とされています。

生産者の今後の飼料管理に少しでもお役に立てたら幸いです。